

ブラジャーの設計に関する基礎研究(才1報)-動作による胸部寸法の変化について一
 滋賀女子短大の奥村董 京女大家政 土井サチヨ 福井弥生 島山絹江
 藤田仁美 山田家政短大 白石孝子 大下学園女短大 田中麻佐子

目的：才1報では静立時の計測値による検討を行なった。本報では、動作に適応するブラジャーを設計する目的で、動作による胸囲の変化について検討した。

方法：動作の設定は、両上肢上挙、前挙、側挙の3動作とした。被験者は、才1報と同様であり、計測項目は、上挙時14項目、前挙時・側挙時おのおの8項目である。この動作時と静立時の計測値から、動きによる変化量を算出し、年代別、カップサイズ別に検討を加えた。

結果：(1) 上肢3動作のうち、上挙時の変化量が最も大である。

(2) 右乳頭高は年代が高くなるにしたがってその変化量が増大するが、乳頭位胸囲、上部胸囲では、減少の傾向がみられる。しかし、下部胸囲位の矢状径の変化量は少ないが、横径・周径は増加の傾向がみられる。

(3) カップサイズ別では、サイズが大きくなるにしたがって、右乳頭高、乳頭位胸囲の変化量は大となるが、下部胸囲はカップサイズに関係なく変化している。